

栃木の子どもの学力向上を図る授業改善プラン

中学校・社会科

vol.2

平成 17 年 9 月 栃木県総合教育センター

平成16年度教育課程実施状況調査（中学校第2学年段階の内容）の結果から、今回は、本県の通過率の平均が、全国の通過率の平均を下回る結果となった歴史的分野について、その問題点を明らかにし、それを克服するための方法を示します。

ペーパーテスト調査結果からみえた課題

《 歴史的事象相互の関係の理解に基づいた知識 》の定着が十分ではありません

本県の通過率が全国の通過率を上回ったのは、歴史的事象を示す絵や短い言葉のカードを使用した問題です（問題A）。単一の図版資料を的確に読み取る力は、全国平均を上回っています。

しかし、そのような資料を読み取る問題でも、特定の歴史的事象に関する知識・理解がないと正解できない問題は、全国の通過率を下回る傾向にあります（問題B）。また、複数の資料を関連づけて正答を見出す問題や、長文を伴う文章資料で提示された問題になると、全国の通過率をさらに下回る傾向になります（問題C）。

土地制度、農村の様子や農業技術、政治、外交、国際関係等の多少複雑な事実関係や推移を問う問題になると、全国の通過率との差はさらに大きくなります（問題D）。それぞれの出来事があった時代を間違えていることが多く、歴史的事象の意味や時代背景についての理解が不十分であることがうかがえます。

以上のような順に通過率が低くなるのは、全国的な傾向ですが、全国の通過率が低い問題ほど本県の通過率と全国の通過率との差が大きくなるという傾向があり、歴史的分野の指導については、基礎的・基本的な事項を見直してみる必要があると思われます。

問題A～Dは実際に出題された問題の中で典型的な例

問題A 本県通過率59.6% 全国通過率54.6% 差+5.0%

次の2枚のカードにもう1枚のカードを加えて「学問の発達」という表題を付けたいと思います。適当なカードを選びなさい。

- 2枚のカード
- 言葉「徳川綱吉が儒学を奨励する」
言葉「本居宣長が古事記伝をあらわす」
- カードの選択肢
- ア 図 見返り美人 イ 図 解体新書表紙
ウ 言葉「水野忠邦が株仲間を結ぶことを奨励する」
エ 言葉「井原西鶴が町人の生活を描いた作品をあらわす」
オ 図 官営模範工場 カ 図 神奈川沖浪裏
キ 言葉「田沼意次が株仲間を結ぶことを奨励する」
ク 言葉「異国への船を派遣することはかたく禁止する(他一条)」

問題B 本県通過率53.1% 全国通過率57.6% 差-4.5%

2班では農業について調べました。その結果、江戸時代は農業が発達した時代であったことが分かりました。次の二つの資料のうちどちらか一つを選んで、資料の記号を□に書き、その資料から農業が発達した理由として読み取れることを書きなさい。

- 資料A 図 千歯扱き、唐箕等を利用している農作業の様子
資料B 図 新田の地名が8か所ある5万分の1地形図の一部

問題C 本県通過率60.9% 全国通過率66.4% 差-5.5%

発表の中で夏川さんたちは「日米修好通商条約は、日本にとって不平等な条約であった。」ことを示すために、次の資料を用いました。この資料は、後の資料の中の、どの条文と最も関係がありますか、□の中に書きなさい。

資料□ 「海外の安い木綿が、低い関税でさかんに流通するようになった影響で、...(中略)...、昔は木綿問屋が三十軒あまりもあったのに、今ではせいぜい五～六軒にすぎなくなっている」

- 資料□
- 第1条 今後、日本とアメリカ合衆国は永く仲良くすること。
第3条 下田・函館のほか、神奈川、長崎、新潟、兵庫を期限付...
第4条 すべての輸出入品について、別に定めた関税を、日本の...
第5条 外国の貨幣は日本の貨幣と同じ種類は同じ量どうして通...
第6条 日本人に対して罪を犯したアメリカ人は、アメリカ領事...

問題D 本県通過率49.4% 全国通過率59.3% 差-9.9%

地租改正について説明した文として内容の正しいものを、次の1から4の中から一つ選びなさい。

- 選択肢
- その土地を耕作する農民が石高4割から5割を米で納める。
 - 公民とされた農民に年齢や性別に応じて土地が与えられる。
 - 地主制度がなくなり、小作人が自作農となることができる。
 - 土地所有者が、地価から計算された税金を貨幣で納める。

歴史的な事象相互の関係を理解させる学習を充実させましょう

「知識を身に付ける」というと、言葉や人物名、言葉等を「暗記する」とことと考えられがちですが、これは知識というものに関する誤った考え方です。

「知識を身に付ける」ために一番大切なのは「理解する」ことです。地理的分野の例で説明しましょう。国名をバラバラに50か国暗記するのは大変ですが、地図の場所と関係付けて記憶することはそれほど困難ではありません。さらに、その国に関する知識があればもっと簡単に覚えることができます。つまり、新たな知識と既習の知識を関係付けて理解することが大切なのです。歴史的分野についても同様のことがいえます。

知識とは、必ず他の知識、例えば、それ以前に身に付けた知識と関連をもちながら理解され、その関連の中で整理されていくものです。関係付ける知識が多いほど理解は確かなものとなり、記憶にも留まりやすくなります。

社会科は暗記教科であると言われてきましたが、大切なのは、社会的な事象相互の関係を理解していくことです。理解することを心がければ、結果として自ずと記憶されます。忘れたときでも、一度理解したものは、苦勞なく思い出せるはずで、理解していない事柄を覚えるのは困難で退屈な行為で、ほとんど意味がありません。社会科は理解を重視した教科です。このことを生徒が理解し、それに基づいて自ら学習できるよう指導していくことが大切です。

1 課題解決的な「一授業・一学習課題」の授業を取り入れましょう

《歴史的な事象相互の関係を理解に基づいた知識》を身に付けさせるには、生徒自らが歴史的な事象を関係付けて考える授業を展開することが必要です。説明に終始してしまう授業や、断片的に作業学習を取り入れるだけの授業では、そのような思考をさせることは難しくなります。基本的な知識は、それを課題追究的に考察することによって、より確かに身に付くものです。そこで、課題解決的な「一授業・一学習課題」の授業に注目してみましょう。

課題解決的な「一授業・一学習課題」の授業

課題解決的な「一授業・一学習課題」の授業とは、一単位時間に、学習課題を設定し、その課題を生徒が調べ、解決し、まとめていく授業です。調べ活動等を通して、生徒自らが課題を解決していく場面を設けてあることがポイントです。

このような授業は、準備や授業実践が大変であると言われることもあるようです。しかし、導入でうまく動機付けできれば、生徒が主体的に活動でき、しかも、学習内容についての理解は、説明中心の授業を上回ると考えられます。生徒の興味・関心が高まることは間違いありません。

課題解決的な「一授業・一学習課題」の授業を基本にして、ねらいに応じた工夫を加えていきましょう。ここでは、課題解決的な「一授業・一学習課題」の授業の基本について確認します。

課題解決的な「一授業・一学習課題」の授業例

題材名：新航路の発見

導入

- 1 コロンブスについて知っていることを発表し、教師の説明を聞く。
- 2 学習課題を設定する。

ヨーロッパ人はなぜ航路でアジアへ行こうとしたのだろう。

展開

- 3 学習課題について話し合う。
新航路は何を求めどこへ行こうとするものなのか。
なぜ新航路を発見する必要があったのか。
新航路の発見を可能にした条件は何か。

まとめ

- 4 本時の学習のまとめをする。

導入では 思考を「ゆさぶり」、学習課題解決のモチベーションを高めましょう

導入は、本時の授業のねらいに迫るためのものであり、本時の生徒の中心的な活動につなげる役割があります。つまり導入は、効果的に動機付けをしながら、適切な学習課題を設定する場面です。

学習課題は、生徒が自分から調べてみたいと思えるものが理想的です。導入では、生徒自身が自然に疑問を持てるように工夫したいものです。教師が学習課題を提示するだけでなく、可能な限り、教師が意図している学習のねらいを、生徒自らが学習課題として意識できるようにしていきましょう。そのためには、生徒の思考や気持ちを「ゆさぶる」工夫をすることが効果的です。

驚くような事実や具体物を提示する

生徒は「すごい」と思うと、必ず「なぜそのようなことをしたのだろう」という疑問を持ちその理由を探り始めます。例えば、コロンブスだけでなく、ガマやマゼランの話をしれば、生徒は、「なぜアジアへ？」と考え始めます。その思いをそのまま学習課題として設定します。

今までの知識では理解できないことを提示する

例えば、アメリカ合衆国に住んでいる原住民をなぜ「インディアン」というのかと問いかけ、問答を進めれば、「なぜヨーロッパ人はインドへ行こうとしたのか」という学習課題を自然に引き出すことができます。今までの知識では理解できないことを提示することで、理解して説明しようとする意識を高めます。

相反する事実や矛盾する事実を提示する

例えば、コショウに関して、イスラム商人による陸路とヨーロッパ人による海路の貿易を紹介した後、「どうしてヨーロッパ人は海路なのか」という学習課題を設定します。生徒は片方を基準にしたり、両者を比較したりしながら焦点化した思考ができるので、自分なりの仮説を立てやすく、モチベーションが高まります。

この「ゆさぶり」は、教師が意図した学習課題につなげられるよう内容をよく吟味し、生徒がどのように反応するのか、思考するのかを、あらかじめ見通したうえで行いましょう。

このような導入は生徒にとって好奇心をかきたてられる大変楽しい場面です。社会科に対する生徒の興味・関心を高めることにもつながります。

展開では 歴史的事象相互の関係をより明確に理解させるための工夫をしましょう

学習課題を解決するための活動を進めていくのが展開です。生徒が自ら調べ、考え、判断する時間です。全体に説明することは導入段階で済ませ、活動に必要な時間を確保しましょう。ここでの活動は、歴史的事象相互の関係を明確にとらえ、理解していくための活動ですから、教師は机間指導等をしながら、生徒に応じた支援を心がけましょう。

このとき生徒は、学習課題の答えに結びつくものを教科書や資料集等から探し出し、ノートに抜き書きするだけの活動に陥りがちです。歴史的事象の関係を明確に理解させるためには、ねらいに沿った活動の工夫が必要になります。

仮説を立てさせる

学習課題に対する仮説を立てるということは、生徒が自分なりに歴史的事象の関係を推論することですから、その仮説の正誤を問わず、歴史的事象相互の関係を明確に理解させることにつながります。また、歴史が思いのほかダイナミックに展開していることを知ることで、歴史学習に対する興味・関心を高めることにもつながります。

調べる観点を与える

学習課題によって、特に考えさせたい部分や焦点化したい部分がある場合には、調べていく観点を提示すると効果的です。例えば、「縄文時代と弥生時代の生活はどう違うのだろう」という学習課題を設定した場合、「衣・食・住」の観点で調べることにすれば、授業のねらいを達成しやすくなります。2ページで示した授業例の展開の～も観点到当たります。

自分の意見や考えと他者のものごとを比較する機会を設定する

グループ学習等で、他者の意見を聞いて自分の考えとは異なる視点を得ることは、社会科の学習においては特に重要です。多面的・多角的に歴史的事象をとらえさせることは、歴史的事象相互の関係を理解させることにつながります。グループ等での話し合いを行う前に、自分の意見を持つ時間と場面を設けるようにしましょう。

複数の資料や立場の違う資料を与える

総合的に考えさせたり、多面的・多角的に考えさせたりしたい場合には、この方法が効果的です。歴史的事象相互の関係をより明確に理解させることができます。各グループに複数の資料を配付して考えさせる方法、それぞれのグループに異なる資料を配付して、調べたことをグループごとに発表し合い、クラス全体で話し合う方法等があります。

意見を発表させ、練り上げる

調べて分かったことや考えたことを発表させ、クラス全体で話し合わせます。机間指導の中で、教師が、だれの(どの班の)意見がどのようなものか把握して、順序立てたり、類型化したりして、意見を整理しながら行うようにします。生徒同士がそれぞれの意見を真剣に受け止めて検討し、よりよい解答を自ら考えるようになると理想的です。

まとめでは 歴史的事象を相互に関係付けながら、学習課題の答えを確認しよう

まとめは、学習課題に対する正しい答えを確認する場面です。展開の仕方に即したまとめ方をすることが大切です。歴史的事象相互の関係を理解させるためには、次のような方法があります。

ポイントとなる複数の語句の因果関係や相互関係を、教師が整理してまとめる

板書した生徒の発表のメモなどをもとに、教師が学習課題の答えを確認します。あらかじめ準備したワークシートなどに要点を記入させながら進めれば、歴史的事象相互の関係を分かりやすく整理したものが記録として残ります。

学習課題の答えを、ポイントとなる語句を提示して、文章でまとめさせる

ペーパーテストの論述式の問題でよく出題されるような方法です。いくつかの語句を指定し、

その語句を必ず使用して、本時で学習したことをもとに学習課題の答えを書かせます。このようなまとめ方と、定期テストや小テスト等の出題内容との関連が図られていれば、生徒の理解と定着の状況を評価する有効な手段になります。

分かったことだけでなく、そのことについての感想を、自分の言葉でまとめさせる

本時で分かったことを自分の言葉でまとめさせます。その際、学んだ内容についての感想も書かせるようにします。「歴史」に対する気付きを表現する経験を積み重ねることによって、生徒一人一人の歴史認識の核というべきものを培うことが大切です。

2 単元のまとめを工夫しましょう

単元のまとめは、社会の大きな変化等、一単位時間では扱えない事項を大きな視点で見直す機会であり、《歴史的事象相互の関係の理解に基づく知識》を身に付けさせる重要な場面です。限られたまとめの時間を有効に活用したいものです。単元のねらいや内容によって、次のような工夫ができます。

テーマを設けて歴史的事象の因果関係をまとめる

授業では、同時期の歴史的事象相互の関係を扱うことが多いので、単元のまとめでは、テーマを設けて、歴史的事象の因果関係を中心に歴史の流れを明確にします。例えば、「太平洋戦争勃発までの日本の経済状況」というテーマを設けて、第一次世界大戦中の好景気、第一次世界大戦後の不景気、金融恐慌、世界恐慌、満州事変、五・一五事件、二・二六事件、日中戦争、太平洋戦争等の歴史的事象を関連させて説明します。

混同しやすい歴史的事象を比較し、まとめさせる

例えば、日清戦争と日露戦争を生徒は混同しがちです。地租改正と農地改革も同様です。既習の事項の中で生徒が混同しやすいものを意図的に提示し、時代や内容、社会への影響などを比較しながらまとめさせます。

イメージ図や略図を書かせる

例えば、江戸時代のまとめで、横軸に年代をとって、縦軸に幕府の力、百姓一揆、貨幣経済の発達、外国との接触等について、その度合いや回数をイメージの折れ線グラフで描かせます。そして、そこに鎖国の成立、三大改革、元禄・化政文化、国学・洋学の発達、開国、尊王攘夷運動等の歴史的事象を位置付け、江戸時代全体の流れをとらえやすくします。

それ以前の時代との相違点や共通点をまとめさせる

ある時代の特色をつかむためには、その前までの時代の特色と比較することが効果的です。何が違い、何が共通しているのか、違いがある場合には、なぜ違うのか等をまとめさせます。この作業を積み重ねていけば、歴史の大きな流れをとらえさせることにもつながっていきます。

年表をつくらせたり活用させたりする

以前はどの教室にも年表が貼ってあり、それを利用して復習したり、歴史的事象を話題に授業を進めたりできました。年表は、つくる時、利用する時のいずれの場合も歴史的事象相互

の関係を確認・理解することに役立ちます。ただし、既成の年表を書き写すだけではあまり効果がありません。単元のまとめの学習で学んだことを記入させるなどして、生徒が継続して活用していけるよう工夫しましょう。

3 小テストで基本的知識の理解と定着の状況をチェックしましょう

近年、興味・関心に強く焦点があてられていますが、基本的な知識を身に付けさせることは、それと同様に重要です。基本的知識を身に付けさせるためには、生徒の理解や定着の状況を把握し、生徒の実態に応じて指導していくことが必要です。《歴史的事象相互の関係の理解に基づく知識》を身に付けさせるために、課題解決的な「一授業・一学習課題」の授業を展開するとともに、小テストを工夫してみましょう。

定着させたい歴史的事象を相互に関係付けて出題しましょう

いわゆる一問一答式の問題は、一つの歴史的事象に一つの歴史的事象を関係付けることで終わりがちなので、より多くの歴史的事象を関係付けられるような工夫が必要です。例えば、地租改正というテーマで文章を作成し、重要な複数の語句を抜いて穴埋め式の問題にし、その文章完成させることで、地租改正に関係する歴史的事象相互の諸関係が確認できるようにします。

ねらいに応じて、小テストの内容を工夫しましょう

前時に学習したことの内容を確認するだけでなく、生徒が混同しがちな既習の歴史的事象と比較して考えさせる問題や、単元で学習した重要語句を指定して、歴史的事象の因果関係を文章で書かせる問題を出題します。

小テストの内容をあらかじめ生徒に提示しておきましょう

具体的にどこの部分が大切であるのか、何が理解できればよいのかが、明確に生徒に知らされていれば、特に不得意な生徒にとって学習しやすいことは言うまでもありません。例えば、小テスト問題の一単元分を、単元の初めに生徒に配付しておき、その中から小テストで出題することにしておけば、指導と評価の一体化という観点からも、また生徒の自学自習の観点からも効果的です。

本時のまとめや単元のまとめと関連付けましょう

課題解決的な学習の授業内容と単元のまとめの内容とが、あらかじめ小テストの内容に盛り込まれており、新しい単元に入ると同時に、生徒全員に配付されていると、活用範囲も拡大し、きわめて効果的なものになります。

小テストの事後指導を工夫し、動機付けなどに役立てましょう

小テストは生徒の努力がすぐ反映するので、生徒のやる気を高めるのに有効です。例えば、よくできた生徒やがんばった生徒をその場で賞賛したり、生徒の実態に応じて次回の小テストの出題範囲を狭めて努力を促したりするなど、工夫は様々です。さらに、全体的に通過率が低かった問題をその場で解説することも大切なポイントです。